



# 東アジア共同体評議会会報

## The Council on East Asian Community Bulletin

Winter 2005 Vol.3 No. 1

### 「東アジア共同体と米国」第2年度へ

当評議会は2004年10月1日に研究プロジェクト「東アジア共同体構想と地域秩序の新展開」をスタートさせ、2005年6月17-19日には東京で、日米両国のほか、中国、韓国、東南アジアからも5名の研究者の参加を得て、第1回国際ワークショップ「東アジア共同体と米国」を開催したが、その第2年度の事業がさる10月1日から始動した。

この研究プロジェクトは、東アジア共同体構想の背景、理論的枠組みやアジア各国の思惑、戦略を明らかにしつつ、米国がこの構想にどのように関わるべきなのかを提示しようとするもの。2005年12月に豪州、ニュージーランド、インドを迎えて「東アジア・サミット」が開催されたあと、米国を東アジア共同体構想のなかでどのように位置づけるかとい

う問題は、喫緊の問題となっているが、この問題と正面から取り組む研究プロジェクトがほとんど皆無であるだけに、本プロジェクトに対する関心は高い。

第1回国際ワークショップが百花齊放に終わった観があるだけに、2006年6月の第2回国際ワークショップではある程度の方向性をもった議論への収斂が期待されている。



伊藤憲一当評議会議長はさる8月、ホノルルにラルフ・コッサPacific Forum CSIS理事長を訪ねたほか、各国関係者からの意見聴取に努めているが、米国を東アジア共同体の正式メンバーに受け入れることは難しいとしても、なんらかの特別の地位を工夫しなければ東アジア共同体自身が立ち行かないのではないか、との感触を得ている。

「地域秩序」プロジェクトを担うのは、田中明彦東大教授をリーダーとするチームである。さる10月6日に第2年度の初回研究会(写真)を開催し、第2年度、第3年度の作業計画につき検討、合意したが、第2年度の国際ワークショップの結論を取りまとめて、第3年度にはその成果を英文で商業出版することが合意された。

### 第3回「東アジア・フォーラム」開催さる

10月31日、北京で第3回「東アジア・フォーラム (EAF)」が開催された。EAFは、「東アジア・シンクタンク・ネットワーク (NEAT)」とならぶ「ASEAN プラス3」のトラック2の枠組みの双壁であるが、後者が地域内のシンクタンクのネットワークであるのに対し、前者は地域内の産官学の代表者の会合である。第1回は2003年にソウルで、第2回は2004年にクアラルンプールで開催された。

今回のEAFは、中国の唐家璇國務委員が主催国を代表して挨拶する形で開幕したが、これまで参加していた韓国の金大中、マレーシアのマハティール、日本の羽田孜等の政治的指導者は今回は招待されず、議事はビジネスラ



第3回「東アジア・フォーラム」のもよう

イクに進められた。

会議を取り仕切ったのは、中国のナショナル・フォーカル・ポイントである中国外交学院であったが、呉健民同学院長は「昨年11月の第8回ASEAN プラス3首脳会議は、東アジア共同体の構築を長期的なゴールとして公式に宣言した。またASEAN プラス3の10周年になる2007年に第2回共同声明(第1回共同声明は1999年)を発表することで合意した」と強調し、さらに「我々は東京での第3回NEAT年次総会で政策提言を作成したが、それらは2007年の第2回共同声明の作成作業に貢献するであろう」と述べた。

EAFの日本のナショナル・フォーカル・ポイントは日本国際フォーラムであるが、同フォーラムからは石垣泰司参与(東アジア共同体評議会副議長)が出席したが、政府からも高田稔久外務省アジア太平洋局審議官が、また東アジア共同体評議会からも吉富勝副議長(経済産業研究所長)ほかが出席した。なおこの機会を借りて、中国側は10月30日に「東アジア協力合同研究会」を開催したが、こちらにも当評議会から石垣、吉富両副議長が出席した。

### 第175回「国政懇」 王毅中国大使

当評議会は9月13日、日本国際フォーラム、グローバル・フォーラムとの共催で、王毅在日中国大使を講師に迎え、「日中関係の現状と課題」と題して、第175回国際政経懇話会を開催した。

王毅大使は「日中間には過去(靖国参拝)、現在(ガス田開発)、未来(中国脅威論)の問題があるが、中国は平和的発展のための国際環境を確保すべく、全方位の親善友好外交を追求しており、対日外交だけが別ということはありません」と強調し、その後予定時間を35分も超過する活発な意見交換を行った。



第175回国政懇で語る王毅中国大使

## 『東アジア共同体と日本の針路』 NHK出版より発刊

一般読者を想定した東アジア共同体に関する入門書、概説書として、このほど『東アジア共同体と日本の針路』(写真)が日本放送出版協会(NHK出版)より出版された。定価2100円で、現在全国書店で好評発売中である。

じつは、本書の実質的な著者は、東アジア共同体評議会である。というのも、本書は、昨年8月に当評議会から発表された政策報告書『東アジア共同体構想の現状、背景と日本の国家戦略』を下敷きにして書かれているからである。

同政策報告書を起案し、8回にわたる当評議会政策本会議の議論をリードした当評議会政策本会議のタスクフォースのメンバーたちが、そのまま本書の著者となっている。

タスクフォース主査の田中明彦東大教授が、当評議会議長の伊藤憲一とともに、本書の監修者となっているほか、タスクフォース・メンバーであった青



木保法政大学教授、浦田秀次郎早稲田大学教授、白井早由合慶応大学助教授、福島安紀子総合研究開発機構主任研究員、神保謙慶応大学専任講師の5名が執筆者として名前を連ねている。

当評議会発足以来の課題であった、「東アジア共同体構想の現状、背景と日本の国家戦略」を調査、研究する試みは、いろいろな形で日本社会のなかにその影響力を拡大していると言える。

## 伊藤議長講演「東アジア共同体の夢と現実」

新聞、雑誌、テレビ等で東アジア共同体を取り上げる機会が増えつつあるに伴い、各方面で東アジア共同体が関心を集め、話題になっているが、当評議会の伊藤憲一議長のところにも、執筆、講演やテレビ出演等の依頼が殺到している。最近では10月12日にアジア親善交流協会(関谷勝嗣理事長)、11月19日にアジア問題懇話会(高野邦彦会長)の主催する講演会に招かれ、伊藤議長は「東アジア共同体の夢と現実」と題して講演した。

伊藤議長は「アジアは一つ」という岡倉天心とタゴールの言葉からその講演を説き起こし、その「夢と現実」を歴史的に検証したあと、1997年のアジア経済危機以降の「ASEANプラス3」

プロセスの誕生と展開および2005年末のクアラルンプールでの「東アジア・サミット」の開催とその中で「東アジア共同体構想」の行方を説いている。

講演速記録全文は、当評議会のホームページ(<http://www.ceac.jp>)に掲載されているので、ご関心のある向きは、アクセスしていただきたい。



講演する伊藤議長

## CEAC活動日誌 (9月-11月)

- ◇9月13日 第175回国際政経懇話会(王毅在日中国大使他29名)
- ◇10月3日 第2年度第1回「地域秩序」研究会(田中明彦リーダー他3名、日本国際フォーラム会議室)
- ◇10月12日 伊藤憲一議長、アジア親善交流協会にて講演(航空会館)
- ◇10月28日 石垣泰司副議長、福田利夫事務局長「東アジア・フォーラム(EAF)」日本側出席者打合せ会に出席(日本プレスセンタービル)
- ◇10月30日 石垣副議長、「東アジア協合同期研究会」出席(北京)
- ◇10月31日 石垣副議長、「東アジア・フォーラム」出席(北京)
- ◇11月15日 第176回国際政経懇話会(佐瀬昌盛拓殖大学教授、森本敏同大学海外事情研究所所長他28名)
- ◇11月19日 伊藤議長、アジア問題懇話会にて講演(日本プレスセンタービル)
- ◇11月25日 『東アジア共同体と日本の針路』NHK出版より発刊
- ◇11月25日 第177回国際政経懇話会(原田親仁外務省欧州局長他26名)

### — 謝 辞 —

東アジア共同体評議会の諸活動の主要な財政的基盤は、その経済人議員の納入する賛助会費にあります。現時点における当評議会経済人議員は、下記名簿記載の15社15口です。ここに特記して謝意を表します。

- ありがとう基金
  - オムロン株式会社
  - オリックス株式会社
  - 株式会社伊藤組
  - 株式会社三友システムアプライザル
  - 株式会社電通
  - 山九株式会社
  - 新日本製鐵株式会社
  - 住友商事株式会社
  - セイコーエプソン株式会社
  - 東京電力株式会社
  - トヨタ自動車株式会社
  - 松下電器産業株式会社
  - 三井物産株式会社
  - 三菱商事株式会社
- [アイウエオ順]



東アジア共同体評議会会報 2005年冬季号  
The Council on East Asian Community Bulletin

発行日 2006年1月1日  
発行人 伊藤 憲一  
編集人 福田 利夫

発行所 東アジア共同体評議会 〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-12-1301  
Tel : 03(3584)2190 / Fax : 03(3505)4406 / E-mail : [ceac@ceac.jp](mailto:ceac@ceac.jp)(代表) / URL : <http://www.ceac.jp/>